

地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪府立成人病センター ■ 病床数 500床

■ 職員数 732人 ■ DPC/PDPS 2006年4月 ■ 所在地 大阪市東成区中道1丁目3-3 ■ ホームページ <http://www.mc.pref.osaka.jp/>



1 外観 2 がん相談支援センター・患者総合相談室 3 CAFE CORE 4 情報コーナー 5 ナースステーション 6 地域医療連携室

難治性、進行がんを得意とする特定機能病院 がん診療連携拠点病院として病病連携を進める

大阪府立成人病センターはがんと循環器疾患の専門病院だ。受け入れる患者数は年間9000人を超えており、空床を待てない患者さんを他の医療機関に紹介するなど都道府県がん診療連携拠点病院としてリーダーシップを発揮している。

1959年に設立された地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪府立成人病センターは、国内で一番初めに“成人病センター”と名付けられた老

舗だ。がんと循環器疾患を専門とする特定機能病院で、都道府県がん診療連携拠点病院に指定されている。大阪府内にとどまらず、近畿一円

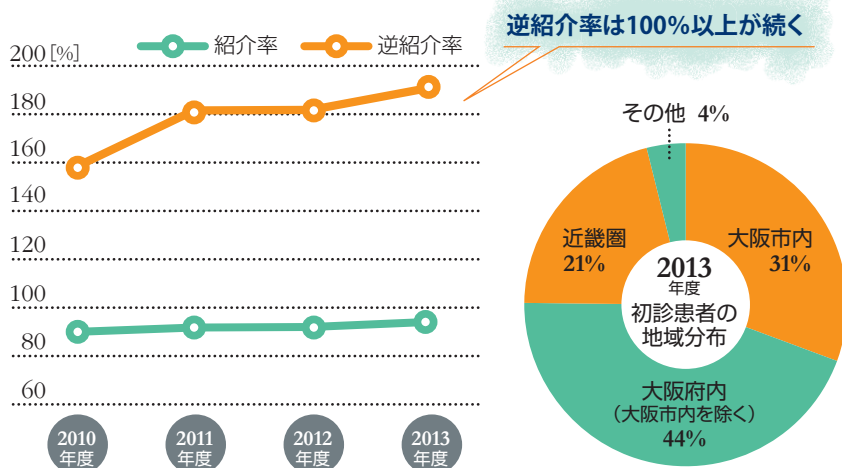
から患者さんが集まる同院の紹介率は94.3% (2013年度) と非常に高い (図1)。逆紹介率については193.4% (同年度) と100%を超えている。これらの値が高い理由には、がん専門病院ならではの事情も含まれている。

■ 複雑性指数が高く 在院日数は比較的長い

同センターの患者数は年間9000人以上、手術件数は4000件を超える (図2)。この4月に総長に就任した松浦成昭氏は「早期がんの内視鏡的切除など、低侵襲な治療も行っていますが、食道がん (年間約80例)、肝胆膵がん (同約160例)、肺がん (同約300例) などの難治性のがん手術と、進行がんを得意としています」と、同センターの特徴を説明する。

そのため、同センターの機能評価係数Ⅱの複雑性指数は常に全国で五指に数えられるほどだ。一方、平均在院日数は17.6日とやや長めになって

図1 | 大阪府立成人病センターの紹介率・逆紹介率の変遷と初診患者の地域分布



大阪府立成人病センターの紹介率、逆紹介率とも毎年高値を維持している。初診患者は大阪府内から75%を占めるが、それ以外の近畿圏からの患者も2割以上いる。

いる。病床回転率も18.6と他のDPC病院と比較すると低い値となっている。

病院長の左近賢人氏は、「重症の患者さんが多いので、濃密な治療が必要になり、入院日数は延びる。回転率を上げて、できるだけ多くの患者さんを治療することが課題だ」と語り、積極的に改善に努めている。

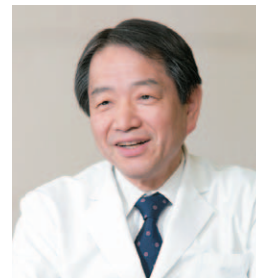
他の医療機関から紹介された患者さんが多すぎるため受け入れきれず、さらに別の医療機関に紹介せざるを得ないこともある(図3)。ただし、紹介先は同センターと変わらない治療を受けられる病院から選んでいる。

主に他の病院へ紹介するのは、乳がん、大腸がん、胃がんなどで、それほどステージが進んでいない患者さんが対象となる。同センターの病床が空くまで待てないときに、どの医療機関でも治療成績に大差のない標準的な手術で対応可能なケースだ。

松浦氏は、「すべて当院で治療できればいいが、それぞれの医療機関ごとに治療しなければならない分野がある。他の病院と治療を分担することで必要な患者さんに必要ながん医療を提供できる」と、がん専門病院間でも連携が必要だと語る。



総長
松浦 成昭氏



病院長
左近 賢人氏

かつては、どこでも同じ医療サービスが受けられる「医療の均てん化」が望まれていた。それが、がんのような高度で専門的な治療が必要な場合には、それに対応できるようにするため、医療資源を集めて特化した医療機関を設置する方向に変化している。これをさらに進めるとがん治療のなかでさらに専門特化していくことになる。同センターはそのフロンティアとしての役割を果たしているようにも見える。

■ がんを究めたい人材の育成にも力を入れる

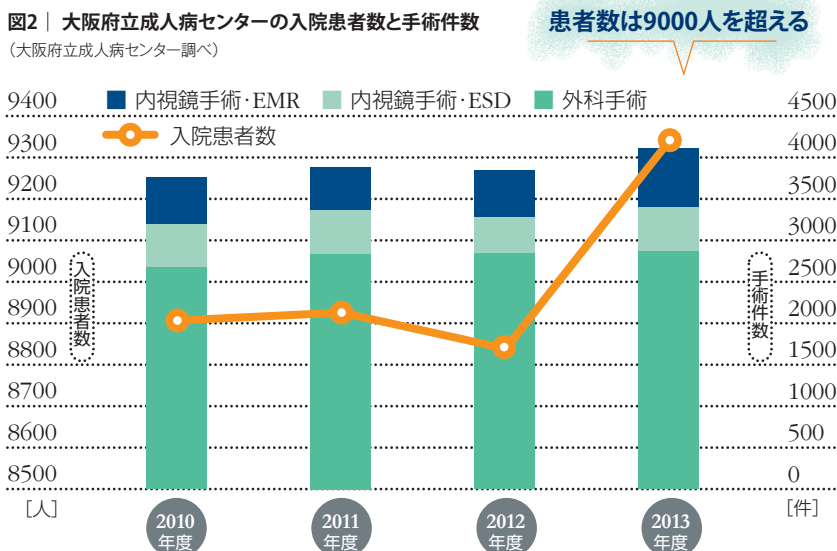
同センターは、看護師や薬剤師などの臨床研修も行っている。高度ながん治療に接することができるだけでなく、合併症のある患者さんに対応で

きるよう糖尿病や高血圧症など各領域の専門医と接することもできる。将来はがんを専門的に究めたいと考える医師だけでなく、薬剤師や看護師にとっても、極めて有用である。

松浦氏は、「今後のがん治療を発展させていくためには、手術のうまい医師を育てるだけでなく、様々な職種で多彩な人材を育てることが大切です。治療だけでなく教育にも力を入れています」と語る。

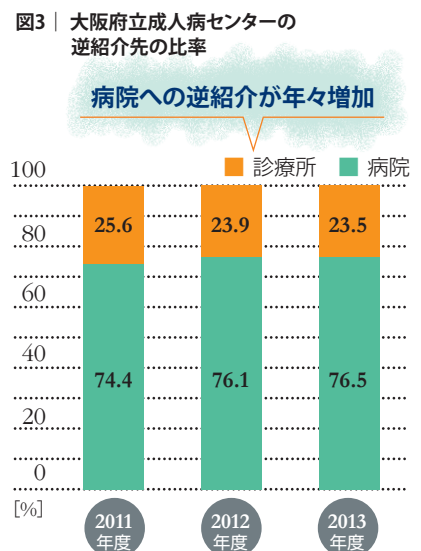
「成人病センターに紹介すれば安心」と紹介元に思わせるだけの実績が同センターの紹介率の高さの理由である。逆紹介率の高さは、都道府県がん診療連携拠点病院として、リーダーシップを発揮し、病病連携、病診連携を推進している結果と言える。

図2 | 大阪府立成人病センターの入院患者数と手術件数
(大阪府立成人病センター調べ)



入院患者数の増加に伴い、主に外科手術の件数が増加している。

図3 | 大阪府立成人病センターの逆紹介先の比率



病院への逆紹介は全体の4分の3で、増加傾向にある。